

大志を育む



令和7年11月28日
(教職員向け)
教育委員会より
No. 67

発行：北広島市教育委員会

生徒指導提要を活用した学校の不登校対応

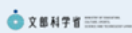
教育支援課指導主事 佐藤 誠

生徒指導提要は、生徒指導の理論や指導方法等について共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるようになってきています。不登校の対策についても整理されており、改善のヒントを得られます。市教委では、令和5年8月に「欠席しがちな子どもへの対応の手引き～不登校は、問題行動ではなく、どの子どもにも起こり得るもの～」を発行し、不登校対応の基本的な流れを示し、未然防止やアセスメントの方法、支援方法や居場所づくりについて示すとともに、具体的な対応についても例示しています。

「生徒指導提要」不登校に関する生徒指導の重層的支援構造

生徒指導提要

令和4年12月
文部科学省



1 事前型の対応 (常態的・先行的なプロアクティブな対応)

(1) 発達支持的生徒指導

- ① 魅力ある学校づくり・学級づくり ～居心地のよい集団づくり
- ② 学習状況等に応じた指導と配慮 ～分かりやすい授業の工夫と学ぶ意欲の向上

(2) 課題未然防止教育

- ① SOSを出すことの大切さ ～SOSを出す方法
- ② 教職員の相談力向上のための取組 ～SOSを受け止める力、教育相談体制の構築

2 事後型の対応 (即応的・継続的なりアクティブな対応)

(1) 課題早期発見対応

- ① 教職員の受信力の向上と情報共有 ～変化に気づくこと、スクリーニング会議、アセスメントツール
- ② 保健室・相談室との連携 ～不調の早期把握
- ③ 保護者との日頃からの関係づくり ～信頼関係に基づく情報共有、保護者が相談しやすい体制

(2) 困難課題対応的生徒指導

- ① ケース会議による具体的な対応の決定 ～多面的なアセスメント、具体的な支援の体制と方法
- ② 校内における支援 ～別室登校、校内教育支援センター、学習機会の保障
- ③ 家庭訪問の実施 ～つながり、安心感
- ④ 校外の関係機関等との連携 ～関係機関につなぐ、多様な学びの場につなぐ
- ⑤ 家庭や保護者を支える ～信頼関係、福祉・医療機関等との連携
- ⑥ 校種を越えた移行期における支援の大切さ ～情報の引継ぎ、切れ目のない支援
- ⑦ ICTを活用した支援 ～オンラインによる教育機会、客観的な状況把握
- ⑧ 多様な自立の在り方に向けての進路支援 ～多様な高校、学びの場



各校には、子どもや保護者の意思を十分に尊重しつつ、個々の不登校の状況に応じた必要な支援が行われることが求められます。生徒指導提要を活用し、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、「学校が楽しい」「友だちがいる」「先生がわかってくれる」となる学校づくりを進め、子どもが社会的に自立できる資質・能力を伸ばすことができるよう学校での取組を強化していきたいと考えています。



緑陽中学校区



小中一貫教育の取り組み



1. 令和7年度の小中一貫教育 3つの「つ」

緑陽中学校区では、目指す子ども像として「自分の言葉でつたえる、仲間とつながる、ねばり強くつづける」を掲げ、9年間を通した一貫した教育活動に取り組んでいます。義務教育9年間を一つのまとまりとしてとらえ、小中学校が連携して指導の系統性を重視した教育を進めています。

今年度は、全教職員が「学力向上」「体力向上」「児童生徒指導」「研究」の4つの部会のいずれかに所属し、それぞれの視点から小中連携の充実を図っています。各部会では、学習指導の内容や生徒指導の共通理解を図るために協議を行い、授業実践や学校行事などで具体的な取組に繋げています。また、年間2回の小中一貫全体会議を実施し、各校の取組報告や成果の共有を通してより効果的な連携の在り方を検討しています。

これまでの取組を継続、発展させながら教職員一人一人が共通理解のもと、子ども達の成長を支えていく体制づくりを進めています。今後も小中が一体となり、地域や保護者の皆様と力を合わせて、目指す子ども像を育てていきます。



小中一貫教育グランドデザイン（抜粋）

2. 中核となる活動 「みどりのまなび」（今年度は1月31日（土）実施予定）

この活動は、小学生と中学生が学びを通して交流することで、互いの理解を深め、地域の中で支え合いながら成長していくことを目指しています。

中学生は8つのグループに分かれ、国語や数学など中学校の各教科を基にした講座を企画します。小学生は低学年（1,2,3年生）・高学年（4,5,6年生）に分かれて参加し、日常の学びを生かした活動を中学生から学びます。講座の運営は生徒が中心となり、教師はサポート役にまわります。中学生は「教える」経験を通して自らの学びを深めるとともに、地域の子どもの導く立場としての責任感を育てています。

一方、小学生は中学生との関わりを通して、中学校生活への期待や安心感を高め、自分の将来を思い描くきっかけを得ています。活動の中で生まれる笑顔や言葉のやり取りは、世代を超えた温かいつながりを生み出しています。

「みどりのまなび」は、地域に育てられてきた中学生が、今度は地域を支える立場として小学生に関わる、まさに“学びの循環”の場です。今後も小中が協力してこの取組を充実させ、地域全体で子ども達の成長を見守っていきます。



※ 写真は昨年度のもので、今年度は1月31日(土)に実施します。

3. 今年度の取組

小中のつながりを深めるため、教科や行事を通して多様な交流を進めています。乗り入れ授業は、週1回程度算数・国語・音楽で実施し、専門性を生かした授業を展開しています。小学生が中学校の先生から直接学ぶことで学びへの関心や中学校への親しみが高まっています。

さらに、部活動体験や合唱交流会、中体連壮行会への参加など、行事面での連携も活発に行っています。こうした取組を通して、小中の絆が一層強まり、9年間を見通した一貫した教育を進めています。

4. 共通のテーマで深める授業研究

緑陽中学校区では、「主体的に考え、伝え合い、学び合う子の育成」を共通した研究主題に掲げ、副題については児童生徒の発達段階に応じた内容を設定し研究を進めています。

小中一貫全体会議の際に両校の研究内容の交流を行っているほか、研究授業の参観等を行い、9年間の学びの中で子ども達の資質・能力の育成に取り組んでいます。



（文責：緑陽中学校 坪田）